今が旬の情報提供を　～第32回～

# 公的保険アドバイザーからの情報特旬便！

（一社）公的保険アドバイザー協会　福島　紀夫
https://siaa.or.jp/

## 「年金は作るもの」である
## 長く働いて厚生年金に加入する

みなさんは、中田敦彦という人物をご存じでしょうか。政治家でもない、行政の方でもない方です。この方のユーチューブ動画が実に勉強になって面白いと評判です。中田さんは、オリエンタルラジオというお笑いコンビで、「武勇伝」などのネタで活躍した方ですのでご記憶にも新しいかもしれません。この中田さんの動画には、歴史、経済など様々な教育系の話題が組み込まれており、しかもわかりやすいのです。お笑い芸人の滑らかな口調がうまく醸し出されている動画が盛りだくさんです。

その中に、年金問題に触れているシリーズもあります。内容はご覧いただければおわかりいただけますが、現在の年金や2000万円問題に対する若者の不安を見事に払拭すべき内容となっています。2000万円問題が発覚した当時、若者が集会を行ったと報道されましたが、年金の仕組みを押さえていればそんな集会に参加する必要などなく、改めて自分の将来を見つめ直せるような作りにもなっているといいます。もちろん私たちが見ても間違った内容ではなく、うまくかみ砕いてくれています。

この2000万円問題に端を発する現象として、どうやって将来の資金をつくればいいのだろうという話題は、若者だけでなく働く世代や高齢者にも大きな影響を及ぼしています。ある新聞報道では老後の生活資金を働くことによって稼ぐとした割合が48・2％にのぼり、近年で最高になったとしています（日経新聞191119版）。年金への不安はあるものの、いつまでもそれだけに頼るのではなく、自分自身で自分を救おうという動きにつながっていると考えられます。

先月もお伝えしていますが、「年金は作るもの」というのが私たち公的保険アドバイザー協会のテーマでもあります。

年金を「作る」とは、働くことで厚生年金に加入して伸ばしていくことです。

厚生年金の適用拡大には、まだまだ否定的な意見がありますが、そのマイナス思考が将来自分の首を締めることにならないような対策が必要であるということです。

## 年金受給年齢範囲を拡大?!
## 繰下げれば受給額が大幅アップに

厚生労働省も、現在の年金受給開始年齢の60歳から70歳までの範囲を、75歳まで広げる検討もしているとのことです。

もちろんすぐにその選択肢が広がるわけではありませんが、前述したように働いて資金を稼ぐという意識が強くなればなるほど、可能性としては広がるのではないでしょうか。

仮に、75歳まで繰下げるとなると一気に84％アップとなり65歳で受け取る年金と比較しても大きな差が生まれることがわかります。今の段階ではありえないと感じることも、あと10年もたつと可能性の高い話になるかもしれません。

この年金の繰下げについて、ポイントで説明している記事もありました（NIKKEI STYLE 人生を変えるマネーハック）。それによると、65歳時点での年金のポイントを「100」として考えると、平均余命の24・5年間存命した場合受け取る年金のポイントは「2450」になるといいます。これは、89・5歳まで生きた場合の24年と半年を加味した数値です。これが、70歳まで繰下げした場合のポイントは「2769」になると示しています。

年金額は個人によって異なりますので、こういったポイントや指数で示されると、どの時点で受給するとよいのかがわかります。現在は、以前と比べても約5歳は若返っているということを考えると、65歳以上の平均死亡年齢は90歳を優に超える可能性も大きいといえます。

前述した中田さんの動画でも、年金はリスクに備えるための保険であると明言しています。ここも当協会の発信していることと重なります。さらに、長生きというリスクに備えるのも公的年金であると伝えています。

印象に残ったのは、年金は保険であり、積立貯蓄でも生活保護でもないということです。積立貯蓄は「自助努力」、生活保護は「公的扶助」、そして公的年金は「共助」であるということです。そして、生活保護は「救貧」、保険は「防貧」ということに感銘を受けました。これから年金をかけていくということは、自身が万が一のリスクに陥った時に防いでくれるものであるということです。自分自身を助けるのは、年金だけに頼って生きる生き方ではなく、働き方やその後のリタイアする年齢を選択するということにつながります。

先日、72歳で現役を引退する方とお話をさせていただく機会がありました。年金の話になり、年金事務所の窓口でいわれるまま繰下げ申請を行ったそうです。おかげさまで働く環境もいただけたこともあり繰下げにしたそうですが、42％も金額がアップしていることをお伝えすると驚かれ、さらに繰下げをしている方の割合は数％であることをお伝えするとさらに驚かれていました。そして、これからも社会に貢献しながら仕事を続けられる環境はありがたいとおっしゃっていました。おそらく今後はこういう事例が多くなると思われます。

若い世代は、そんな年齢まで働くのか、働かないと年金はもらえないのか、そんな年金なら破綻してしまうのではないかというのが持論のようです。中田さんの動画は、公的な発信ではありませんが、不安を見事に払拭してくれるのではないでしょうか。

## 長生きのリスクに備える公的年金
## 『防貧』のための保険である

■保険業界向けセミナー好評開催中！
・東京＝12月10日（火）
・大阪＝1月16日（木）